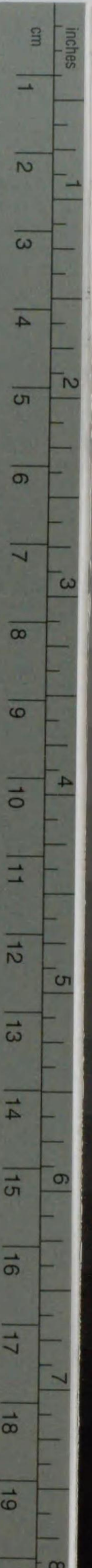


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

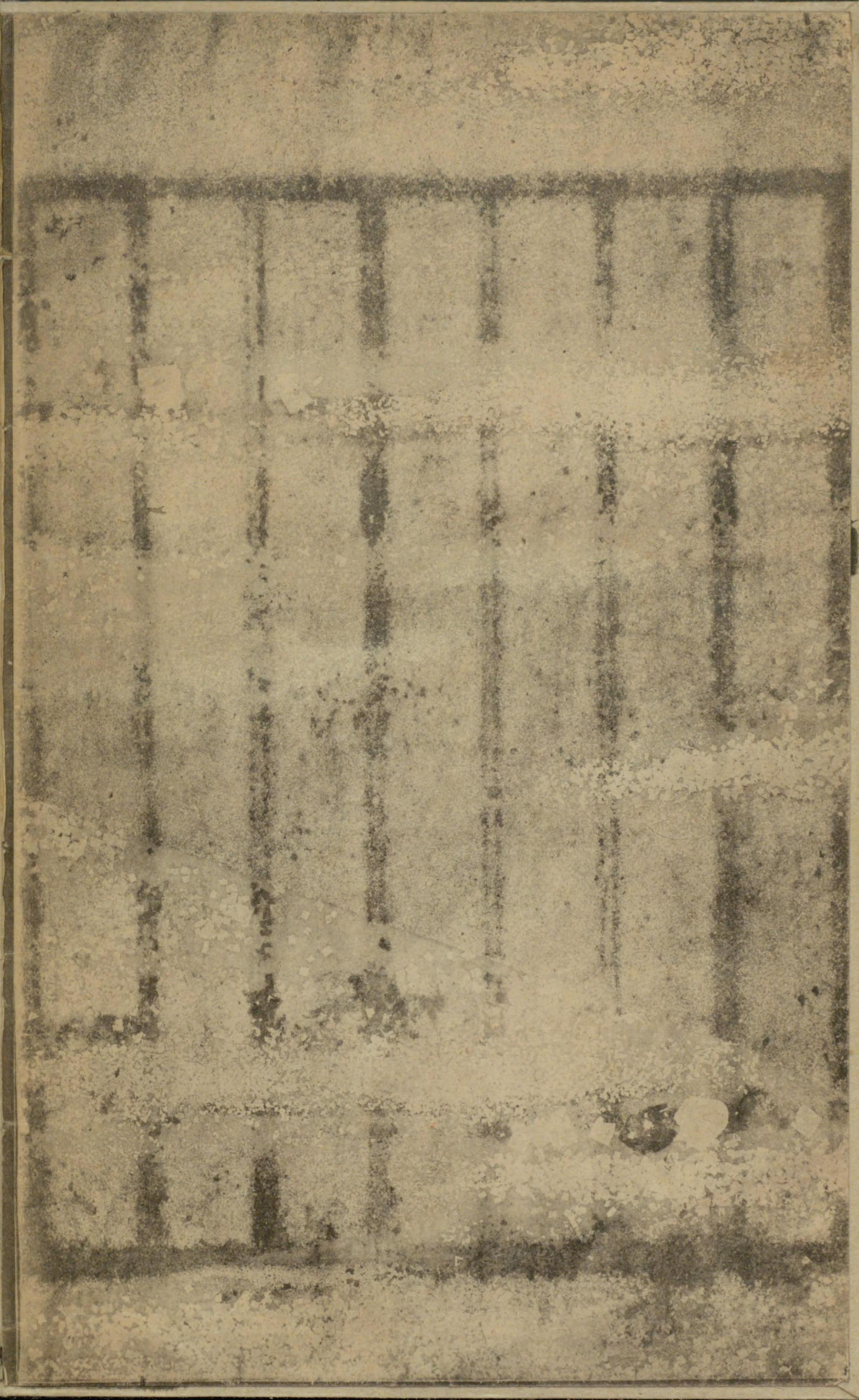


140
272

古今和歌集

233

140-292



本云

以貫之自筆本書寫本也

件本於皇太后宮燒燬^失果云

和哥等不以解本其說頗違善

通云

此集可用やふとていふ人の心

真名序

次予有所

所見也

のいふれいといふるを

かふよの中より前の人

いふわきふたふすといふ

れをいふ人といふるを

みろとめいけくこの上は
なぐいをせぬな

花1なくうくをみけ

1はむかへたのよきま

なはましけし

うれうたをよせ

なまらうたをよせ

くあつちをうりし

かにみえぬた^鬼か^神をよ

あつれおたえうかおと

たむなのるつたやましけ

やんてしめあふると

あまのまは
のしんぞう
かひまう
いづれ

そなくさじらふうたを
このうた、あらけらのひら

なましむわなう時よわ

てはになむしつあれま

おしけをまふつまは

むさかきあまにーハ

したくふらまよ

あかりのけらま

まけのをれまことよ

うたわけらま

にきす

あまに

したてまは
あまのまは
のしんぞう
かひまう
いづれ

あゝの...ふた...の...

りか...の...だ

り...も...の...を

の...り...を

あ...の...を

あ...の...を

如古語拾遺并
日本皇代記
者神代之初
伊弉諾伊弉
册二神共為
夫婦生大八
洲國及山川草
木次生日神
月神夜夜生

素戔嗚神

云々素戔

鳥稱元許少

有不害

本三有下檢

す...の...を
い...の...を
か...の...を
こ...の...を

あ...の...を
あ...の...を
あ...の...を
あ...の...を

あ...の...を
あ...の...を
あ...の...を
あ...の...を

も...の...を
年月を

うたのさふむむむむむ

かしのうたしぐくろあ

つはろのむくされむ

ほにろろうたむむ

あすのふくろむろ

下つれうた

水
まきの
とら
牛島牧人
倉橋新
賜姓見
手集

一風

考別紙

なにぬほいせくや

このむれふくもむ

大なるそくやこのを

こつなろつ

ゆたふはろろ

さくろれたもろ

くこのあらさな

二風

考別紙

公平左拾遺集
物右ツミ
志賀里

ゆたふはろろ

さくろれたもろ

くこのあらさな

三白比

みくしたるしやのふ

とーしよと

こつなつ

みつはるやうくた

はみしをさあをき

のしよれおよ

はるひく

三白興

はるひく

東つるやう

よけはたきくた

ちるやう

はるやう

まの

はるやう

ちるやう

五目雅

草在處

十四

いづくはきいしうた
草つるこ

いづくはきいしうた

いづくはきいしうた

いづくはきいしうた

いづくはきいしうた

いづくはきいしうた

六目頌

在權馬樂

いづくはきいしうた

七目殿

別紙

いづくはきいしうた

いづくはきいしうた

いづくはきいしうた

いづくはきいしうた

いづくはきいしうた

いづくはきいしうた

いづくはきいしうた

つげは、奇をた下ま

ししめしひふあるは

ををさるふくたのなの

ころしゆしひあるは月

とがゆふくくしひあるは

すやとにたまねの

みたぶらぶらさかしく

がら、るものともろしし

けしとあるのまじりと

こいししとたましく

とらふのしとさよみ

かいらふらふらふ

のふたにたはるるるる
はるるるるるるるる
にふるるるるるるる
なをたふるるるるる
のあふるるるるる
はるるるるるるるる
はるるるるるるるる

たふるるるるるるる
うるるるるるるるる
たふるるるるるるる
なをたふるるるるる
にふるるるるるるる
はるるるるるるるる
はるるるるるるるる

しだをなごちあつ月
のしまのをもぬかきを
かろへあらはくれをけの
うましゆしを人エん
ゆしのをくをくまは
のなをうらこまは

にいふはゆしのちをけ
なをけをわつりのさし
たけらちをよとちてん
うたし歌のこはしりをも
ちくさかたをいしりも

世宗良下長
聖武天皇
北河歌諸

く侍しをらうちにな
の

歌由見皇代記

或物言依澤

池投身名采

冬阿女帝衛

其時有倉

隨夫和語

伴集澤奇種

余良帝奇文

所入此集

龍田河奇種

同余良帝奇

此為歌返歌

人九奇也

武号阿女實

皇代記

天靈國押

用豊櫻彦

天皇又御年城

宮故号余良

又以天智天皇

構阿女帝奇

天今用阿天

皇代記也

にけし時よらるる

のたけしよ

やうたのじんを

たわらむか

たけしよ

のたけしよ

のたけしよ

のたけしよ

のたけしよ

のたけしよ

のたけしよ

のたけしよ

のたけしよ

のたけしよ

のたけしよ

此

此

此

此

此

此

此

此

此

此

此

此

此

此

此

此

此

此

倉
從持歌新時至
聖或御時下平

皇代記

之由見万葉集

此以前以後不

詳亦人又同

時由見

みるはとみる春のあ
 したよしのよのき
 は人みちののさ
 うねほくはる又山のつ
 の人さよむむのあ
 うたさわのさたのさ

かのくじんはあの人
 まみしをむさひく
 の人さよむまの人
 したなむさひくなし
 のとけののくした
 又さくされなる人

かのさあ
 ほんた
 じつじんさ
 りあてなり
 めあいらは
 もまじらる
 りてな
 くの
 ちてた

れをけのよきまは

かゝるものよりに

おそくなじめる

けっさはの哥を

なび万ふしうご

られたわたり

ほろろ
しつかり
かきと

変

かゝるものよりに
おそくなじめる

けっさはの哥を
なび万ふしうご

聖武謙位
後醍醐之次

孝謙十年癸

帝六

梅池五

老十二

桓武天皇

平城四年

嵯峨十白

源和十

仁明十

文徳八

清和十八

陽成八

光孝三

宇多十

のこをふしうごため
をたしん人わつし
しつかりやちのふれ
いしちとこんぬとこん
たつらになじあらかめ
しつかりのこんぬ

度若造御年
至平寛平終
百冊九年也テ
四代也誰物
載上満
何代十代等餘人

りいんるのいんる
はになしきまにけり
しこのこをりた
社人し
はのこをり
はのこをり
はのこをり

たかまはかうなれ
れまのちのち
のたのち
のたのち
のたのち
のたのち
のたのち

白法極喜行可

わんげんみやあじつていころはら

ふ者基見 極喜各別人ん

わんげん

うらのろうはせ

そかきかきしてさしめ

をいりたしとならせ

もあまの月をみふ

あつ月のまにあつ

よよあつたは

はねぬきれあ

かよをてよくし

たのいから

あつたは

なりあつた

わんげんは
かやのあ
しつて
あつたは

百八十三頁由

死付あり

但不得心事

有少と不紙

但邊心

このまじくは

今れさうたのこがよ

るのさまは

りからい

あまのし

りは

普通四時

このまじ

かつたこな

すけい

わい

さ

く

け

即位以来昌

泰三年

五年并八

年七の代

帝寛平九年

二の又新

九回以讓

年行先帝

新帝有

是以先帝

年行先帝

新帝不行

故之但出

而付新帝

川ぬ来門のくちやうこ

ゆめわたるみぬらうた

今も若失の将一けや

不耐優美痛 以てん新桂集

みけのくちもとたふ

りもたふらうれの中

じりさのくちまをらう

てけさすはかまはめ

らかむかゆまみらに

らままたけりかめく

すくまなふしよと

あまのくちまは

打つてのくちまは

依名貞若序 皆梅十八日貫

作並序四月十日 始以奉詔目也如

真若序大向 日七前如仲客

由所存也 雜然海年多以

日次於来を改日 八下りん

撰所内書所 重案三人

白古書八 以前に不注に

各所遺書 在念今撰り

初日五月八 日三つかん

貫之集同 叶共撰ん

万葉集序同
今も若失の將
不耐優美痛
以てん新桂集
三三三
序書以てん
後多多以ん
采入未撰解
歌見出也

八八八

けいさくふくあふすたに

しちてたむたらとのかあ

ら春夏秋秋ゆし

いぬくしのまのをむ

ししこしんかたつ

下らりたもしりりち

けて古今和歌あふら

く代高ふあつめし

山した山のたふと

ののこの木はく

のいこのあもる六のせし

はらりてははは

元歌千首首

事女十不稱
定教ん行業

書ん
但或況三首

自歌う人
撰上十首

後黄し身九
十九首う依
勅監通入し
ら如自録千
九十九首也

とすにあらざるなり
えんくちん丸なるが
たむらうたのしん
かほたしん
しんかたのしん
しんかたのしん

うたのしん
よちのしん
かたのしん
しんかたのしん
しんかたのしん
しんかたのしん

ふかきとちかきと
はらばらとくまらと
のちとよとまらと
はらばらとくまらと
ふかきとちかきと

秋六十首

此中五首

古今和歌集卷第一 春歌上

ゆるらうに春乃まをに
元方

よめつ

在原のものが棟梁男

入歌古首

うららのうららけすに

因幡大由良

けりむとむをふこころこや

満子後夏

新撰集
歌也

いそむこころこやいそむ

さるのたらもつらよる

九十七首

すのつらゆき

元時御書

考別紙

かてららくこころを

後五位上木

のこほりも春たけける

三才从童

名号内教

のせやこころし

坊町子久

目候

いそむこころたけくや

一首旋頭

凡号中員之
百有二百从

一首

除患幸也

三のよりのよりのうしゆ

いしゆわつ

二条のまはまのくら

一のゆうた

ゆすのうららはま

なわうらまのほ

裂 とうきたうやこくし

正持前太

后

諱高十首

清和女御陽

成院女后贈

太政大臣藤原

長良女后

伴守正五上

上総女后

鳥五節業

姫

皇末十一年
三月薨

たのうらら

催馬樂梅し

枝哥也 春のけくたも

別紙 さいわくは

ゆすのうらら

らをもとら

叟首

左少将良家

定貞二男

由性僧都

末寛平

春たぐは花や

手抄本南白
筆本六
花名五

ゆすののわつてしうと
すのれく

法皇遊
宮港
依任良
院賜良
号彼寺
建三

別紙

前大突片
并墨葉
或所見作
者已或所
著注是雖
同之不

さるさしゆくろやせし
たしし次
のたれさみゆら
あらんのかさくすは

知定説奇
歛

のたけすたちし
らすみりうたさ

二条のすけすめりう

宮のみやけいん

もさうしんりう

月三日たすはる

にすむとありあけ

しるくくたなつら

いけのくくく

くくくくく

た系

いふくくく

くくくくく

くくくくく

いけくくく

いけくくく

いけくくく

いけくくく **春**

いけくくく

今三首

六首

目録

屋康秀

元任
任経殿助

別紙

さしうらわらふ

さしうらわらふ

飯原のこゝなを一首

目六言

直目奏

三任相

播才様

從女絶男

當首

かゝりのいひ

とるのしとあか

春やこほし

くちまは

くらま

あいら

寛平北山

の哥合

目六言

時從

後叙

後上

能有

大和物語

泉大持

け下

を

は

は

は

は

は

は

まのよりのわ 以五首

別 けのつよかやたのち

たくらてくらくらさ

くらくらくらくら

くらくらくら

讀人不知

四百五十四首

其短一

旋以三

但此中著注

作者十三文

無名寄物數
目錄無相表
但各一有言加
其全無相

くらくらくらくら
くらくらくらくら
くらくらくらくら
くらくらくらくら

在原のむね 四首 棟梁

くらくらくらくら
くらくらくらくら
くらくらくらくら
くらくらくらくら

くらくらくらくら

くらくらくらくら

くらくらくらくら

くらくらくらくら

くらくらくら

ゆにやまのふし

うたふたふたふたふた

らかーとーとーとーとー

なぐーとーとーとー

はらゆー

のまののまののまの

のまののまののまの

のまののまののまの

たのたのたのたの

たのたのたのたの

たのたのたのたの

たのたのたのたの

寛平のゆめ

たのたのたのたの

源のゆめ

たのたのたのたの

世火標

五音

目之行年

三位中納言

民部卿板

察使三品門保

親王弟二子

奈良天皇

二世聖桓武

天皇女伴皇

内親王生行年

六首

目之宗干

千時後上兵

了大南後兵

上右京大夫天

慶三ノ平又

在儀凡大更
集九件大
牙廿三音
左
秋

と、らふくしく行る春に
そのまにあらたに
わ社ういふやゆく

花らこら乃たつこさし
山中こにたつこさし

かたのこあつをこさし
こらこらこらこら
かたのこあつをこさし

凡河がこら

智六の寺四
首と定國屏
風寺の巻者
五十三音

春とむくのりつるなま
らまらこらゆこらわに

こらこらこらこら

卒六
其中短二首
于時甲斐守
有正末七、二
月十三日任
收才大目
後任法路依
共首且中短

こらこらこらこら
こらこらこらこら
こらこらこらこら

藤健彦
七条子向為更
衣又為伴
守町長仲

しらぬしみるあるいふもの
しらぬしみるあるいふもの
のそとにたつた

たつた
しらぬしみるあるいふもの
のそとにたつた
しらぬしみるあるいふもの
のそとにたつた

しらぬしみるあるいふもの
のそとにたつた
しらぬしみるあるいふもの
のそとにたつた

在様九集

詞

山

しらぬしみるあるいふもの
のそとにたつた
しらぬしみるあるいふもの
のそとにたつた

しらぬしみるあるいふもの
のそとにたつた
しらぬしみるあるいふもの
のそとにたつた

業松

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



寛平御時  
か哥合のよま  
のち

かーのふん  
花

か  
か

か  
か

裂  
か  
か

か  
か

か  
か  
か

伊勢語

か  
か  
か

か  
か

か  
か  
か

同











信ふ通二よそてたからばら二首

目云推高親王  
号小野官

文徳天皇第一  
王子母延四上院  
静子正四下若  
扇女也

富林院

人乃心くもみらるる  
な心らしとこしゆゆ  
かくされしるるら  
らけりよと下もろ  
そうくかうし

三首

目云永均  
元慶二年

消新し表か  
うなや

春

くくらしるる  
春なるゆゆ  
こくくくく  
さくの花やらわらわ

三十一

なせ

花らしと風らるる  
くくくく  
ゆよ



在素心集  
普通之  
十

言林院

れをよめる  
かうくさし

くさし  
あつあつは  
うさし

あつあつは  
あつあつは  
あつあつは

あつあつは  
あつあつは

あつあつは  
あつあつは  
あつあつは

あつあつは  
あつあつは

あつあつは  
あつあつは

あつあつは  
あつあつは  
あつあつは

但雑詩

十七首

于勝藏人所難

色法流下

諸司抗辨

介海植

孫豊前介

房別男



或本三首の  
二二二

あらしもみぢくはせぬ

いづらうこたふくくち

つらふあつたつ時

あせしあきしし

おろしこましく

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

三首

目録香高

侍従下貞

頼寛年人

たれこましく

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

舞

あつたあつた

あつたあつた

あつたあつた

見合或本  
有此奇  
此歌音律  
本



雅院

或所曹子停  
已考坊也  
中河門北五  
七東ら

雅院用

さくらのくわみは  
みつらうたなり  
なるをさくさる

さくらの新うさ  
一首

同文書野草

さくらのくわみは  
みつらうたなり  
なるをさくさる  
さくらの新うさ  
一首

さくらのくわみは

さくらの新うさ

さくらのくわみは  
みつらうたなり  
なるをさくさる

首村院に

さくらのくわみは  
みつらうたなり  
なるをさくさる



奏有等河  
音本

さくさくし  
らつにた  
た

かへつ川  
雲林院ニ丁カリチサク  
ノチリヲシマ  
シキト三ノク又シヤスルトサク  
ノチリヲシマシキト三ノク又シヤスルトサク  
ノチリヲシマシキト三ノク又シヤスルトサク

さくさく  
らつにた  
た

さくさく  
らつにた  
た

さくさく  
らつにた  
た

かへつ川

さくさく  
らつにた  
た



三つめのさくら

さくらさくらさくらさくら  
春のさくらさくらさくら

のらりりし

東宮のたらくさくら

らさくらさくらさくら

のちるなよさくら

一首  
目良也

此亭在興

風集

但良風為帶  
刀刺桐叶若  
彼集失飲

梅本次第也

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

別紙

山さくらさくらさくら

干晴左馬守

成徳五下位翁

園介敬信

黒田陽助



里主亮平法

白王幸石山前

近江守打出濱

所儲所居里

主之由見大和

物語里主苗

城寺本堂其後

縁記云

大伴里主村主

赤心寺申智

隆大竹等天

白土寺是為

免國使

寺子被奇合貴

非伴奇合作者

又被奇合匠木

十年四月大自

也布御本

平木當貴

寺欽

くみぬし

三首

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人

くみぬしはしきた貞觀之此人



寛平御時子よしの宮

のこの合ありて

うせ

しんしのこははかか  
若立はうつるはつと

らんらん

たし次よ

えんれいんれい

さしあらし

のこのゆし

春のうた

ほらゆは

みわ山を

わか草

雲林院のふこの

のほらら

けつ

のほらら

雲林院  
親王常康  
仁明天皇  
七子







こころのこころねとの奥に  
うたをいふもあはれに  
うたをいふもあはれに

寛平西田  
下れうたのなま

目云興成

サクラハナ  
うたをいふもあはれに  
うたをいふもあはれに

早木古位  
下總才大孫  
子院藤太春  
清満成経道  
成男

うたをいふもあはれに  
うたをいふもあはれに

あはれに

うたをいふもあはれに  
うたをいふもあはれに

うたをいふもあはれに



もたしむるは...  
しるは...  
人...  
た...  
し...  
し...  
し...  
し...  
し...

し...  
し...  
し...  
し...  
し...

浴子朝替

ら...  
の...  
に...

仁和の申将のこて

の...  
の...  
の...

千...  
千...

一首

目...春澄朝替

浴子匠木二

匠三位

春議者澄善

絶句

一首 同ら...  
千時匠五位下左

馬公及倫前存

高...有穂二里

母備後介女信

興成女







らるるをれをいしううう  
むよめはえわつこも  
しものこと

をのこころち 十首

茨  
まれのいろもうわにた  
わさいたつたわつこも  
なつたあも

仁和の中崎うやと所

のいづゝあか合せて  
しけつ時えよさう  
えせ

在集

を  
しなむらつこもれ  
なつたあも

しつれ山こいし女のた  
ほくあつたきふに  
てつたあも



たつた

あつたゆゑにたつた山に城を  
いふれよみりもさうあつと  
花うちりもさう

寛平西時とはいふ宮の

奇合のうた

さうのうたははははは

こゝろをさうさうさう

山てつたまのうた

うたのうた

やぶやぶくもら山にぬ

たつたよしゆらうらうら

さうさうさう

寛平西時のうた

宮の奇合のうた

奇合

山てつたまのうた

うた















~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



別紙をしめこまにまゝに春

貞文奇念のまにこつららるるに

此奇念のまにこつららるるに

有三首

寛平御時まにこつららるるに

此奇念のまにこつららるるに

長保五年二月廿九日

平仲家奇念のまにこつららるるに  
此奇念のまにこつららるるに  
寛平御時まにこつららるるに  
此奇念のまにこつららるるに

平仲家奇念のまにこつららるるに  
此奇念のまにこつららるるに  
寛平御時まにこつららるるに  
此奇念のまにこつららるるに

新垣集云  
平仲家奇  
念仲春奇念  
但仲奇念  
春春奇念

平仲家奇念のまにこつららるるに  
此奇念のまにこつららるるに  
寛平御時まにこつららるるに  
此奇念のまにこつららるるに



のさしよりりてんは  
しきふ

なわらの胡松

ぬれつうしは  
とものらに春はくらくと  
わしは

ていの院の奇合のち

みはぬ

はのこころは  
またしものちやまは

よれのつは

延本  
三月  
五日

廿六



歌音

古今和歌集卷第三

復尋

たけなすけのふゆのふゆ  
かたさけのふゆのふゆ  
はこふゆのふゆのふゆ  
つるふゆのふゆのふゆ

この寺冷雨らんらん

のふゆのふゆのふゆ

うらふゆのふゆのふゆ

たけなすけ

まのふゆのふゆ

別紙

あさねてふゆのふゆ  
あさねてふゆのふゆ  
あさねてふゆのふゆ

あさねてふゆのふゆ  
あさねてふゆのふゆ  
あさねてふゆのふゆ

あさねてふゆのふゆ  
あさねてふゆのふゆ  
あさねてふゆのふゆ

あさねてふゆのふゆ  
あさねてふゆのふゆ  
あさねてふゆのふゆ

あさねてふゆのふゆ  
あさねてふゆのふゆ  
あさねてふゆのふゆ

いせ

七音  
目云  
栞本朝長天足  
長田神人命  
之後也  
敏達天皇所  
在依家門有栞  
樹為栞本長

署  
自利員  
從五下所傳等  
元慶五年卒

猿丸集  
詞三十一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十











ものねむしやねは、いふな

まっせそち

ほら、まきながら、いふに  
を、はたれ、し、し、し、

後集詞云

さうさう、いふに、

あつ、いふに、

ほら、いふに、いふに、

いふに、いふに、

いふに、いふに、いふに、

いふに、いふに、

いふに、いふに、いふに、

いふに、いふに、

いふに、いふに、いふに、

いふに、いふに、

いふに、いふに、いふに、

いふに、いふに、

いふに、いふに、いふに、

いふに、いふに、

いふに、いふに、いふに、

いふに、いふに、

いふに、いふに、いふに、

いふに、いふに、

いふに、いふに、いふに、

いふに、いふに、

いふに、いふに、いふに、

いふに、いふに、

いふに、いふに、いふに、

いふに、いふに、

いふに、いふに、いふに、

いふに、いふに、

いふに、いふに、いふに、



長安院抄

いそよのあつた  
しのすけ  
おのすけ  
おのすけ  
おのすけ

わつた  
おのすけ

くわん

一首  
目三國所

あつた  
おのすけ

くわん

仁朝史表  
貞登母

おのすけ

くわん

くわん

寛平御時

あつた

くわん

くわん

くわん

くわん

くわん

くわん

くわん



大いのちけり

九首

目次江

正木三博

大正

春儀

やうとせとさしをらるる  
おれなくにありけり

こゝろたこね

よれい

業人

なつたよれい  
ふかきけり  
ふかきけり  
ふかきけり

ふかきけり

ふかきけり

ふかきけり

ふかきけり

ふかきけり

二首

目次

秋峯

なつたよれい  
ふかきけり  
ふかきけり  
ふかきけり



あはれな  
あはれな

あはれな  
あはれな

あはれな  
あはれな

あはれな  
あはれな

あはれな  
あはれな

あはれな  
あはれな

あはれな  
あはれな

あはれな  
あはれな

別紙  
在家持

集巻

あはれな  
あはれな

あはれな  
あはれな

あはれな  
あはれな

あはれな  
あはれな

あはれな  
あはれな

あはれな  
あはれな

あはれな  
あはれな

あはれな  
あはれな

あはれな  
あはれな



あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに

あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに

あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに

あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに  
あはれなるに

あはれなるに

在家集  
又如目定  
亥午年







夫よふとわ

今所ぬ

らわさるゝまふゝこそ

たかまふとわしりりら

ふつここのたのたの

ふまひるしこちのこ

よりの

たふとわとわさるゝの

いふらにのたふとわし

ふゆや吹流

秋八首 古今和歌集卷第

杜若

秋を月ひよりの

秋意のこた

廿八、和ふとわとわ

みふぬしゆのた

いふらにのた

元首

目ら敏行

延上右兵衛

猪寛年九

任色延上

板家使留

土誓男廿

三下刑

名席女

已夢不

行輪思







在允集

山崎のた乃わのれい  
わこーきかーちりこた  
からわー

あよこら  
あよこら

赤牛橋  
五丁橋

あよれ  
わいせ  
林を  
とく

實方良云

若与子を本  
てしつ  
猶猶  
とや大人

寛平西のしなわ  
寛平西のしなわ

い  
た  
何  
あ

伴路大南自  
筆本三六  
うら

あ  
の  
う  
ら











かゝるかなるなをの思

しるし

かゝるかなるなをの思

かゝるかなるなをの思

在寛平治等

本

等在平里集

但件其奇三

清本三毛  
P. 337  
普通ハアソ  
カニハトアリ

かゝるかなるなをの思

かゝるかなるなをの思

かゝるかなるなをの思

かゝるかなるなをの思

かゝるかなるなをの思

かゝるかなるなをの思

かゝるかなるなをの思

かゝるかなるなをの思

かゝるかなるなをの思

惟貞親王

文徳天皇

御子清人不

知字

皇字有



朗詠集江

菟田集律  
衛詠也

ほむれわのつらしむ  
もわくあふみよ  
ふたよききつり  
とら  
みられ

かきらわな  
かたつしお  
人  
たつそら  
たつそら

くわに  
くわに

このわ  
社のよれ

在万葉集

小夜中

わ  
わ  
たは千里

たは千里

わ  
わ  
わ  
わ  
わ



たみぬ  
いさだのふも林  
きんぎょのうらや  
てはくさしは  
月とともうな原を  
秋のよれ月のひかりあり  
けなぐくくゆのよこまね  
つらた  
人のかたに  
手もしるも  
いさだのふも林

いさだのふも林

まゆを  
林のよれなる  
れろも  
休みの  
いさだのふも林

四首  
自ら書房  
従下左  
佐下左  
城守  
太倉  
乃孫

いさだのふも林  
いさだのふも林  
いさだのふも林  
いさだのふも林  
いさだのふも林



猿丸集

たゞし〜ま〜ま〜  
雨をたさ〜  
手は〜  
よら〜  
わ〜  
さ〜  
ま〜  
ま〜  
ふ〜

家持集

秋の〜  
あ〜  
あ〜  
あ〜  
あ〜  
あ〜  
あ〜  
あ〜  
あ〜  
あ〜



榮泉御言

そのいふは

今あらは

とまは

くらしはなつらな人

くらしはなつらな人

けはるあはれ

くくくくくくくく

くくくくくくくく

くくくくくくくく

くくくくくくくく

くくくくくくくく

くくくくくくくく

くくくくくくくく

くくくくくくくく

くくくくくくくく

くくくくくくくく

くくくくくくくく

くくくくくくくく

くくくくくくくく

くくくくくくくく

別紙

集

三十一







寛平御時はつとの言一首

のうた合のうた

に存厚のすね纏

別紙

雨あめのさしはこもつとほろとあ

なぐくらゆるぬははあ

のさわしらかりしうあを

かりのなきをらとしう

みはれ

自ら出宮後

若蔵人頭後

四下式子大車

春宮高立

十一

後宗謙贈三

任従之上志布

春日侍志後

早下右之上

皆良尚書

うまはこもあつあつあ  
のちよれりなとすころわ  
れ林ありな

これすこのみくこの  
の奇合のうた

をみぬ

やこけと共秋ころとにわ  
中をいし鳴ぬし  
をすしつ

枝歌  
かたはら  
のうた



此等有寛字

中宮事合

俵九集

但五集字

あすの

二つしあ

いんまて

た、一、ら、は、の、又、念、と

わ、く、や、こ、に、十、三、ら、の、ま、

々、な、く、し、か、あ、う、あ、ま、く

ご、ま、ろ、秋、ま、ら、な、し、た、れ

た、い、し、と、を、れ

わ、こ、な、な、に、し、も、秋、と

和、し、ら、ま、ら、し、た、と、ま、の、こ

し、の、は、く、し、し、た、と、ま、の、こ

わ、こ、ま、ま、な、な、つ、ら、三、の、

せ、く、な、く、し、ら、せ、よ、は、ま、

ま、く、た、も、め、や、ま、

い、れ、は、た、の、こ、の、い、ら、乃、音

今、よ、う、う、た、

あ、あ、の、い、の、ま、の、勢

秋、ま、ら、の、い、れ、ま、ら、な、あ、た

か、ま、の、た、の、い、の、け、い、な

い、く、し、あ、あ、り、て、ま、へ、

ま、ら、人、の、秋、の、い、に、あ、ら、く

待、待、三、題、不、元、  
字、た、し、然、者、誰、  
奇、合、異、

廿、六、人、

別、紙

清、と







家持良  
但さうもた  
かゝるは

ふらぐみあたらそ  
は林さそあにたトと  
にをたらししはゆ

後丸良

ささたれらるしはの

つりけり  
至家持良

一ゆ一巻一ゆ  
はしゆくき

至家持良

はしゆくき

如目六秋下奇  
二首極康秀  
奇三

の身合にゆあ  
これたのうこのい

一巻にやあや

おまのになく  
たふなれやほく  
くたのいし

二首  
目ら文屋  
康迄本  
信大今人  
利江所給

大いしを  
信通

かほをよ  
かまら  
ま

信大今人



いづれもさるはまにたは  
うらなふをさうなうし

うらなふ

あはれいふこら

三首

おろくまへしうきあふさ

ゆきさきくかたきうし

おろくまへし

あはれいふこら

あはれいふこら

あはれいふこら

あはれいふこら

あはれいふこら

あはれいふこら

あはれいふこら

あはれいふこら

あはれいふこら

あはれいふこら

あはれいふこら

あはれいふこら

寛平はる  
寛平はる  
寛平はる

寛平はる  
寛平はる

二首  
目云小野  
林は五下  
乃不白  
運三石大  
皆三石大  
坂上男  
本二平

朱雀院のをみるへし



たのむはむらさき  
をくあへし 木のこぼりに  
なひまは くらんら  
たのむはむらさき

二首  
後任在巻  
初平号  
後贈たのむら  
照言云一男  
品人京朝  
日女送年九  
宛花

及度  
たのむはむらさき  
たのむはむらさき  
たのむはむらさき

一首  
主晴房  
本高  
母宮田  
宮道  
号手安石

及度

たのむはむらさき  
たのむはむらさき  
たのむはむらさき  
たのむはむらさき

及度

たのむはむらさき  
たのむはむらさき  
たのむはむらさき  
たのむはむらさき



昌泰元年

とこれししゆれとよもて  
くらあはれはつはりもを

みしゆれとよもて

むすむす

人のこころしきくさ

おこなししむすむす

きりきり

ひよりのこころしきくさ

ひよりのこころしきくさ

辰度

にうすうす

そのくさくさ

れいしきくさ

たかたか

みゆり

むすむす

むすむす

寛平四年

くさくさ

智録賢王

この本は  
智録賢王の  
御記の事



たのこししけりぬと花  
ふらりて三れいり  
ふ時かつらとくうた  
三けついつくはよあ

平のたふん

九首

しれくおつこりけり  
らしきと三れいり  
しに妙なるしし  
しにたふん

目云々  
平仲平時  
兵衛尉  
飯後之工  
不介右中将  
風一男

のうたに  
しにたふん

平のたふん  
長元二年

たふんか  
よらえ  
こと  
しにたふん  
しにたふん  
しにたふん



髪

つらさのいかにせよ  
にほひくりに  
よらもろいかなよ

あまのいかにせよ  
秋のいかにせよ  
よらもろいかなよ  
よらもろいかなよ  
よらもろいかなよ

つらさのいかにせよ  
あまのいかにせよ

寛平御時のまことの

やうき合のいかに

左から

あまのいかにせよ  
あまのいかにせよ

あまのいかにせよ

あまのいかに



伴来合三  
別紙

わねのこやあふふふふふ  
はあまななくふふふふふ  
ふふふふふふふ

大いふふふふふ

みこわしふふふふふ

ふふふふふふふ

花にふふふふふ

十くけのふふふふふ

あふふのふふふふふ

ひふふふふふ

行ふくふふふふ

むふふふふふ

うつふふふふ

仁和のふふふふ

まふふふふふ

あふふふふふ

在丸集  
万葉集書  
三ふふふふ



別紙

へせうのうらひのこころの  
いりかたをうらひに  
をわねのうらひに  
あつたのうらひに  
よみかたをうらひに

あはれはあはれとて人のこころ

やうにうらひにうらひに

あはれはあはれとて人のこころ

古今和歌集巻第五 秋歌下

秋六十五  
首

いれあはれのみこころの  
合の歌にうらひ

あはれはあはれとて人のこころ

あはれはあはれとて人のこころ  
あはれはあはれとて人のこころ  
あはれはあはれとて人のこころ  
あはれはあはれとて人のこころ

古今和歌集  
巻第五  
秋歌下